



江戸時代の年中行事

講師 日本女子大学文学部日本文学科教授 福田安典先生

日本の年中行事は、四季の移ろい、風土性、文献知識、宗教、民間信仰、海外文化の摂取などから長い時間をかけて作られてきました。そのため、地域差があり、同地域でも個人差があり、多様性があります。また、寺社や祭礼との関わり、五穀豊穰、商売繁盛、子孫繁栄などの人々の願いとも密接に結びついています。一方、宮中行事も発達し、様々な行事がルール化されていきます。江戸時代になって、幕府の方針もあり、五節句を中心とした年中行事が一般化されるようになります。それでもそれまでの地域性のある行事がなくなったわけではなく、豊かな年中行事を人々は営みます。

近代になって五節句の制は廃止されますが、民間では現代に至るまで形を変えて営まれています。

本講座では、江戸時代の年中行事を講義します。



『絵でよむ江戸の暮らし風俗大事典』
棚橋正博、村田裕司編著 柏書房（2004）より

第一回 5月20日 五節句 言えますか？

第二回 5月27日 年中行事 今むかし

どちらも水曜日 14時～16時 ※各講座の概要は裏面をご覧ください。

【会場】大和市文化創造拠点シリウス 6階 生涯学習センター 601講習室

【定員】先着50名 【対象】どなたでも（大和市内在住・在勤の方優先）

【受講料】各回1,000円

【申込】4月11日（土）10時から受付開始

お電話または大和市生涯学習センター窓口へ。

☎ 046-261-0491

市外の方は、お席に空きがある場合、4月17日（金）10時からお申込みいただけます。

右のQR、お電話または生涯学習センター窓口へ。

江戸
を
楽
し
む



大和市生涯学習センター

〒242-0016 大和市大和南1-8-1 / お申込・お問合せ 046-261-0491

小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅から徒歩3分

- ◆天候や交通機関の運行状況及びその他やむを得ない事情により開催中止となる場合があります。
- ◆駐車場の数に限りがありますので公共の交通機関でお越しください。



第一回 5月20日 五節句 言えますか？

まず年中行事の考え方の基本である日本人の自然の移ろいの理解、太陽暦と太陰暦、陰陽五行論などを解説し、五節句の成り立ち、節分の話をしてします。五節句のうちの端午の節句までを中心に解説します。折しも5月の講座です。みなさまの日常の行事や節句料理などのお話を伺いながら、楽しく講義したいと思います。

第二回 5月27日 年中行事 今むかし

七夕から重陽の節句までを解説し、年末の民間行事や五節句ではない江戸時代の年中行事について、実際に江戸時代の版本の挿絵を用いて解説します。初午や庚申信仰など現代にも通じる行事が浮世絵や絵入版本ではどのように描かれているのでしょうか。寺社参詣などは現代と似ているところ、違うところもありますので、わかりやすく解説します。

講師：福田 安典

日本女子大学文学部 日本文学科教授

【講師プロフィール】

平賀源内を中心とした江戸時代の文学全般を専門とする。大阪生まれ。平賀源内が四国出身というので12年間ほど愛媛大学に勤める。おもな著書は『儒医の文芸』(汲古書院)、『平賀源内の研究 大坂篇(源内と上方学界)』(ぺりかん社 2013年)、『医学書のなかの「文学」江戸の医学と文学が作り上げた世界』(笠間書院 2016年)、『江戸の実用書 ペット・園芸・くらしの本』(共著 ペリかん社 2023年)など。医譚賞、日本古典文学学会賞、文科大臣賞、愛媛出版文化賞などを受賞。

